

渡辺大三

週刊 NEWS



【会派 NEWS】 2019(平成 31)年 4 月 22 日号 週刊 Vol.13
お気軽にご連絡ください 〒184-0012 小金井市中町3-26-15-301
TEL 090-3345-6929 FAX 042-381-5074 watanabedaizou@gmail.com

新しい時代「令和」を迎えて 小金井市政の刷新を前へ

3 月末から 4 月 21 日まで、全国的に統一地方選挙が実施されました関係で、朝の駅頭での NEWS 配布は休ませていただき、各地の仲間の応援演説に回りました。

武蔵野市、清瀬市、杉並区、渋谷区、目黒区、文京区、江東区、墨田区、江戸川区、大田区、川崎市など。自分の選挙より過密なスケジュールでしたが、他の自治体の選挙を手伝うのは、それぞれの街の在り方や政策も千差万別で、私自身にとっても非常に勉強になります。小金井市政の改革に活かせる素材も数多く見つけられました。

今日お配りしている「渡辺大三 NEWS」が、平成としては最後のものになります。次号が「令和」最初のものになります。今号では、新しい時代「令和」を迎えるにあたっての抱負を書かせていただきました。

さらなる情報公開の徹底

任期 4 年の前半となるこの 2 年間、私は、市議会で議会運営委員長を務めてまいりました。その中で大きく前進したのは、全国的に問題になっている「政務活動費」の透明性を高める改革でした。

従来は、市民が、議員が政務活動費をどう使っているかを知るには、情報公開請求をして、多額のコピー代を支払って領収証の写しを見る必要がありました。

しかし、今般、私が委員長を務める議会運営委員会での議論によって、市議会のホームページ上で領収証の写しを全部見ることが出来る改革を実施することが正式に決まりました。

4 月 9 日付「読売新聞」は、この問題の特集し、東京都内の 49 の市議会、区議会のうち、政務活動費

の領収証をホームページで公表しているのは 18 市区のみであると報じています。

私は、小金井市をエリアとして活動する地域政党(ローカルパーティー)「情報公開こがねい」の代表を務めておりますが、さらに市政のあらゆる分野で情報公開が進むよう「令和」時代も全力で取り組んでまいります。

さらなる人件費の削減

任期 4 年の後半となる今後の 2 年間、私は、市議会の行財政改革推進調査特別委員会に所属したいと考えています。

現在、小金井市は、多摩 26 市の中で人口が同規模(11~12 万人)の国分寺市、東久留米市、昭島市に比べて、正規職員、任期付職員、非常勤職員の人数がかなり多い現状があります。

義務費である人件費が多いということは、その分、市民サービスに回せる財源が少ないということ意味します。

西岡市長は 3 年 4 か月前の市長選で「職員人件費の削減」を公約して当選しながら、市長に就任するや態度を一変。まるで、選挙の「御恩返し」とばかりに、就任後わずか 1 週間で職員手当の大幅引き上げを決め、その後も職員ボーナスを引き上げるなどして、逆に人件費総額を大きく増やしてしまいました。

ももとの所属政党から、労働組合の「背後関係」がある市長だとはいえ、平然と公約に違反し、市民に対してなんの謝罪もないとは、神経を疑うしかありません。

私は、この間、あらゆる機会に、小金井市を「全国ワーストの高額人件費地獄」から脱出させる提案をし

てきました。それが実り、相当数の改革も進んできたのに、西岡市長の登場で、人件費総額が急増してしまっただけは、許すことができません。

まずは、小金井市役所の人件費の実態に関する情報公開をさらに進め、人口が同一規模の自治体の中で、もっとも「肥大化」した行政を、もっとも「スリム」な行政に変え、市民サービスの財源をきちんと確保してまいります。

「令和」の時代は、地域主権がさらに進みます。それはつまり、それぞれの自治体の市長や議会が優秀かどうかで、自治体ごとに相当の「格差」が出ることを意味します。

そういう意味で、行財政改革推進調査特別委員会に籍を置くことで、改革を前に進める「原動力」になりたいと考えています。

また、市議会議員定数が、多摩 26 市の中で人口が同規模(11~12 万人)の国分寺市、東久留米市、昭島市に比べて、2 人も多い問題もあります。もちろん、乱暴に削減すればいいとは言いませんが、同一規模の自治体よりも議員定数が多い現状は、市民、とりわけ「サイレントマジョリティー」であるサラリーマンの皆さんの理解を得られるものではありません。

私は、あらゆる方策を用いて、議員定数を 2 人削減し、他市並みにしていこうと考えています。

さらなる「まちなおし」の提案

今回の統一地方選で、武蔵野市に応援に行きました。武蔵境駅から武蔵小金井駅まで歩いて帰ってきたのですが、やはりJR中央線の高架下の利用に関しては、武蔵野市と小金井市との大きな「格差」を感じました。

武蔵野市では、高架下スペースはほぼ例外なく活用され、少なくとも虎模様のフェンスで囲んだまま雑草が生えているゾーンはありませんでした。

しかし、小金井市では、高架下スペースは一部は活用されていますが、とりわけ市の中心部では、虎模様のフェンスで囲まれ、雑草が生い茂り、不法投棄が後を絶たないゾーンが相当な面積で残存しています。

JR が差別しているというよりは、武蔵野市役所と小金井市役所の「行政能力」の違いがこういう「格差」を生んでいる主因だと私は考えます。

これまで私は、市議会の質疑で再三再四、高架下スペースの活用の促進を市に提案しておりますが、市とJRの間の話し合いは思うように進んでおらず、虎模様のフェンスは放置されたままです。

このことが影響し、高架下の歩道(歩道状空地)が相当部分で未開通になっており、交通安全上も問題です。

人口減少が全国的に進む「令和」の時代は、将来

の維持費や更新費がかかるインフラやハコモノを無制限に増やしていく従来型の行政からは脱却し、小さな工夫で大きな効果が得られる「まちなおし」の思想で政策を構築する必要があると思います。

また、私は、都市にあっては「みどり」「公園(広場)」の多さがその都市の価値を高めると考えています。小金井市は、北端と南端に大きな公園を有していますが、中心市街地の「みどり」「公園(広場)」は比較的貧弱です。新たな市役所建設にあたっては、敷地内に「みどり」「広場」を十分に確保できるよう提案を続けてまいります。

「昭和」の後半に異常なほどの職員大量採用で「高額人件費地獄」に陥った小金井市は、「平成」9年について職員の退職金を払えなくなり借金に頼るといふ大事件を起こして新聞の1面記事になり、それ以降、いわゆる「行財政改革」で一定の改善を果たしたものの、いまだに市民サービスの財源は多摩 26 市でも下の方に位置しています。「令和」の小金井市を良くするため、市政刷新をさらに進めていく所存です。

脱ムダで市政を変える！

渡辺大三 プロフィール

1966年5月2日、岩手県奥州市生まれ。秋田県、宮城県、山形県を経て、9歳から小金井市在住。小金井市立本町小学校、小金井市立小金井第一中学校、東京都立小金井北高等学校、中央大学法学部卒業。株式会社河北新報社(仙台市)で新聞記者。衆議院議員秘書を経て、1993年、小金井市議選に26歳で初当選。以降7期連続当選(直近4期は無所属で立候補)。「脱ムダ改革」を掲げ、小金井市政のムダ遣いや不正、癒着、天下りを厳しくチェック。

現在＝小金井市の地域政党「情報公開こがねい」共同代表。東京の地域政党「自由を守る会(代表＝上田令子都議会議員)」幹事長。市議会では議会運営委員長を務める。

日々の市議会報告、活動報告、雑感

Twitter、facebook に掲載しております。「渡辺大三 HP」からアクセスできます。ぜひお読みください。

<http://www.daizou.org/>

NEWS 発行カンパのお願い

みずほ銀行 小金井支店 普通 1414875

口座名 情報公開こがねい

(お振込み後、お名前とご住所をお知らせください。領収証をお送りします/外国籍の方はカンパができませんのでご注意ください)